

1. 計画の概要

(1) 計画の目的・背景
限られた財源の中で社会変化に対応し、より良い行政サービスが提供できるよう、将来を見据えた長期的な視点で市民センター等のあり方について示す「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」を策定する。

(2) 位置づけ
町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」や「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)」に基づき策定する。

(3) 計画期間
2021年度～2039年度

2. 現状と課題

(1) 財政のひっ迫、公共施設の老朽化、維持管理費の増大
財政状況が厳しさを増す中、公共施設の多くが老朽化しており維持管理経費の増大が見込まれる。維持管理経費の財政確保が困難な中、必要な公共サービスを維持または向上させるため、施設総量を圧縮しつつ、施設重視から機能重視への転換による新たな価値を創出する。

(2) 施設機能毎の考え方としての施設再編
町田市公共施設再編計画の基本的な考え方に基づき、「建物」とそこで提供される「サービス・機能」を切り離し、施設機能毎(「A 庁舎・窓口機能等」「B 集会施設」)のより良いかたちを実現するための方向性を整理する。

(3) 行政窓口のデジタル化への対応
マイナンバー制度の進展等のICT化により、窓口へ来所することなく、より簡単に身近な場所で行政手続きが可能となるなど、行政サービスが大きく変化することが想定される。社会変化に対応した行政窓口の見直しが必要となる。

(4) 利便性の向上
より良い行政サービスの提供のため、市民にとっての利便性向上の観点から検討を行う必要がある。(例：学校等の活用による利便性向上の可能性)

(5) 認知度の向上
市民センター等の利用率向上のため、市民の認知度を向上する必要がある。

(6) 市民センター等の将来的な役割の変化
環境変化に伴う市民センター等の将来的な役割の変化を見据えた検討を行う必要がある。(事例「熊本市(証明書発行に特化した窓口を整理し、まちづくり支援として機能強化を図る)等」)



3. あるべき姿 第2回検討委員会での意見

【行政窓口編】

コ・民	民間施設に入り込む、負の資産を減らす、デジタル化、駅・ショッピングCに
地・コミュ	学校の活用、コミュニティで使う、若者の留まり場、地域と若者のマッチング
利便性	駐車場が重要、利便性の高い場所、便利で楽しく利用、行政の縦割りをなくす
ソ・魅	地域は高齢者・中心部は若者に魅力ある施設、行政間の連携・情報共有

【集会施設編】

コ・民	民間施設に行政サービスが入り込む、指定管理者制度の活用・できることの模索
地・コミュ	学校を地域に活用・民間管理、統廃合時の利用、若者の留まり場・マッチング
利便性	駐車場が重要、利便性の高い場所に立地、便利で楽しく利用、縦割りをなくす
ソ・魅	地域に高齢者のため、中心部に若者のための施設、行政間の連携・情報共有

4. あるべき姿を実現するための手法

【行政窓口編】

コ・民	
地・コミュ	
利便性	
ソ・魅	

【集会施設編】

コ・民	
地・コミュ	
利便性	
ソ・魅	